（公財）コープともしびボランティア振興財団

2013年度事業計画

＜基本方針＞

1. 2012年度に検討をすすめてきた第2次中期計画の方向性である「助成財団としての中間支援機能の発揮」「地域密着型活動支援とともに、社会課題の提起や解決をめざす活動への支援」「地域の福祉コミュニティづくりに貢献する活動支援」の具体化を設計、準備していく年とします。あわせて、そのための体制づくりをすすめます。

2. コープこうべとの協力関係をベースに、より地域に開かれた活動支援の足掛かりをつくります。公益財団となったことの意義を、コープこうべ内外に広報強化し、財団事業への理解者、共感者を広げます。

Ⅰ．助成事業を柱としながら、より中間支援機能を発揮できる事業への転換を検討し、助成団体、助成対象者との関係づくりを深め、活動の継続・発展を応援します。

１．ボランティア活動助成

（１）募集および申請状況

助成の募集は2012年11月1日から、当財団ホームページ、コープこうべホームページ、コープこうべ機関紙「きょうどう」等で行い、下記のとおりの申請状況でした。

継続申請希望のボランティアグループには2011年12月に、県内8会場で申請説明会を開催し、審査基準についても説明しました。新規申請団体については、活動実績のわかる資料を持参いただいた上でヒアリングを行い、当財団の助成趣旨、審査基準、審査方法等を個別に説明しました。

		＜グループ数＞	＜金　額＞
申　請	福祉等	141グループ	10，385，000円
	環境	31グループ	1，971，000円
	合計	172グループ	12，356，000円
助　成（案）	福祉等	137グループ	7，399，000円
	環境	29グループ	1，571，000円
	合計	166グループ	8，970，000円

（２）審査について

審査基準

助成金の募集要項に、下記の審査基準を記載、公開しています。

◇課題の把握力：課題把握、企画力、実行力
◇社会貢献度：社会貢献度、地域密着度
◇活動の継続や発展性：チャレンジ性、運営能力、会計能力
◇循環型のしくみへの理解

（３）今年度の特徴

2003 年度から減少傾向にあった申請件数が、今年度初めて増加し、特に新規申請団体が 29 件と昨年度より大きく増加しました。

	申請件数		新規申請件数	
	2012 年度	2013 年度	2012 年度	2013 年度
福祉	135	141	8	22
環境	26	31	0	7
合計	161	172	8	29

（４）2013 年度助成（案）

	分野	対象者	件数	助成額	助成給付率
①	福祉	高齢者	28	975,000	10.9
		障がい者	18	1,231,000	13.7
		地域住民	5	264,000	2.9
		在日外国人	1	136,000	1.5
		特定団体	2	48,000	0.5
		不特定多数	1	50,000	0.6
		施設・病院	11	225,000	3.0
		合計	66	2,929,000	36.3
②	まちづくり		12	449,000	5.0
③	文化・芸術		10	608,000	6.8
④	国際協力		5	349,000	3.9
⑤	男女共同参画		4	572,000	6.4
⑥	子ども育成		40	2,492,000	27.8
⑦	環境の保全		29	1,571,000	17.5
	合計		166	8,970,000	100.0

２．市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

（１）2013 年度申請状況

今年度は 8 件の応募がありました。

（２）助成（案）

書類審査ならびに 2 月 25 日の面接審査を経て、下記のとおり 2013 年度調査研究助成を提案いたします。

○助成総額　80 万円
○助成対象者　4 名

（３） 申請案件

＜助成案件＞

氏名・研究テーマ	所属 在籍または入学機関
三苫利光 ハイブリット・スクール（混合型高等学校）における社会体験学習の意義と可能性の追求	クラーク記念国際高等学校 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
布谷由美子 これからの継続可能な社会の中での働き方とは　そのための教育と求められる力	株式会社NOTICE 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
砂田貴彦さん 介護現場に関わる職員及びボランティア自身が持続的にエンパワメントできるようになる社会及び事業所の環境設定について～介護現場の違和感調査から～	滋賀県介護福祉士会 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
岡本祥公子さん プロボノとNPO・地域コミュニティとのコーディネート実践～コーディネーションの要点および実践者の変化～	NPO法人サービスグラント

３．助成のしくみの見直し

（１） 課題提案型助成の検討

第２次中期計画策定委員会で提起された課題提案型助成について運営委員会を中心に検討、設計をすすめます。あわせて、ボランティア活動助成の審査方法、審査体制についても見直しを検討します。

（２） 調査研究助成

社会課題や地域でさまざまな課題に取り組んでいる人材の発掘につながっている
この助成をより効果的なものとするため、助成後の活用に焦点をあてた見直しを検討します。

４．ボランティアの交流機会の充実

（１）市民活動交流会

2013 年度助成グループを対象に、活動の交流とボランティア活動助成金の交付を行う「市民活動交流会」を５月に開催します。今回は、「地域づくり」へのかかわりをテーマに、建築家として阪神・淡路大震災後の神戸のまちづくりにかかわってこられた松原永季さん（スタヂオ・カタリスト代表）のミニ講演とワークショップを中心に、ボランティアどうしの活動分野、エリアを超えての交流をはかります。

（２）申請説明会での交流会

12 月に県内８会場で開催するボランティア活動助成申請説明会で、申請の説明後の時間を活用して、エリアごとのミニ交流を今年度も行います。

５．活動者、活動支援者の育成と啓発

（１）セルフヘルプ活動の普及と連携

2007 年度からすすめてきた中期計画の中で、当事者（課題を抱える人）を中心に据えるセルフヘルプ活動をより多くの人に知らせ、その社会的意義の理解者を増やし、支援する取組みを行ってきました。

今後の活動支援をすすめていくため、今年度は、コープこうべと連携し、活動支援に携わる職員を中心に、セルフヘルプの社会的役割や実態、取り組む意義などの学習を集中的にすすめます。財団はこれまで連携をはかってきた（特活）ひょうごセルフヘルプ支援センターとの関係をベースに、職員学習に協力し、今後の支援への基盤づくりをすすめます。

（２）調査研究助成　公開報告会

2012 年度助成者の研究発表の場として、修了後の現在の活動内容や問題意識を聞き、交流を深める公開報告会を「地域をつなぐボランティアコーディネート報告会」として７月に開催し、この助成が培ってきた成果を地域に還元します。

（３）研修・講座

今年度は、ボランティア活動者の育成、高齢化による活動の継承、調査研究助成を活用した講座などを行います。セルフヘルプについては、コープこうべの活動支援に携わる職員への研修に協力し、支援者の育成に貢献するとともに、セルフヘルプへの理解をすすめます。

（４）職員研修の受け入れと連携強化

2011 年度から、コープこうべ職員研修の「地域・組合員活動参加」にメニュー提供し、職員のボランティア受け入れを行っています。これまで参加した職員は、供給事業に携わる若手職員が多く、ボランティアとの交流や財団事業を新鮮に受け止め、仕事

へのやりがいや組織への共感を高めていると同時に、当財団への理解促進にも貢献しています。

今年度も、主催事業をメニュー提供し、運営ボランティアとして参加してもらい、ボランティア活動への関心を高めるとともに当財団の事業活動への理解と共感を深めます。さらに、職員教育担当部署との連携を強め、財団の取り組みを職員教育に活かす新しいアプローチを共に検討します。

６．活動現場の課題やニーズの集約と活用

ボランティア活動助成、調査研究助成の助成先を訪問し、活動現場での課題やニーズの把握につとめます。集約した内容を、事業の企画に反映させます。

Ⅱ．財団事業の価値を伝える広報の強化をはかり、理解者、共感者、支援者を広げます。

コープこうべが地域支援のために生み出した公益財団としての意義や価値を知らせる機会を増やし、知ることが支援につながるしかけをつくっていきます。

（１）コープこうべ広報室の協力を得て、当財団が支援している地域のさまざまな活動・人の地域での貢献や価値を伝える短時間映像（ＤＶＤ）を制作し、財団事業の理解者、共感者を増やします。特に今後の財団理解のベースとなるコープこうべ役職員、機関組合員への理解をすすめる取り組みを強化します。

（２）年間を通じて、コープこうべ機関紙『きょうどう』での連載記事（毎月）、ラジオ番組内での助成グループや活動者の紹介（毎週）など、さまざまな媒体での広報を強化します。

（３）コープこうべ職員研修へのかかわりを継続・強化します。

（４）広く一般市民も多く来訪されるコープこうべ食品工場、商品検査センター見学者への広報を行います。

Ⅲ．公益財団としての寄付税制優遇の活用や収入のしくみ化によって財政の安定をめざします。

１．募金、寄付の「見える化」

(1)コープともしびボランティア募金

2013 年度より、コープこうべのしくみを活用した募金事務局を、コープこうべ生活・文化福祉部とし、組合員からの募金がコープこうべより当財団に寄付されていることが組合員にわかるよう「見える化」をはかります。

集中募金は今年度は 10 月の 1 か月間に集中して、店舗および宅配事業を通じて実施します。

2. 募金、寄付のしくみ化

(1)夕食サポート事業との連携強化

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用1食あたり0.5円を当財団に寄付いただいています。

(2)ポイントによる募金

宅配事業利用組合員を対象とし、通年で実施する募金です。2012年8月から制度がスタートし、少しずつ金額が伸びています。今年度は財団事業の広報強化を通じて、募金の拡大をめざします。

3. 広報活動との連動

(1)賛助会員の呼びかけ強化

広報活動と連動して、制作するＤＶＤの上映や記事掲載される広報媒体を活用し、今年度は特にコープこうべ役職員、機関組合員の集まる場での賛助会員加入の呼びかけを行います。

(2)法人賛助会員のHPでの紹介

当財団ＨＰの中に法人賛助会員の紹介ページを作成し、法人賛助会員獲得に活用します。

4. 基本財産運用

財産運用規則にのっとり、適正に運用をすすめます。

Ⅳ. 第2次中期計画をすすめていく事業推進の体制づくりに着手します。

運営委員会

第1次中期計画で設置した運営委員会は3期6年が経過し、この間、財団事業推進に大きな役割を果たしてきました。第2次中期計画でめざす地域とのかかわりや課題提案型助成、人づくりなどをすすめていくため、より実務的な課題をともに推進いただく運営委員会とします。